

第122回経営協議会議事要録

日 時 令和6年1月19日（金） 13時30分～15時25分

会 場 大学本部棟5階 第1会議室

出席者 (委員)

長田・進藤・山本・山中・窪田・野田・佐々木 各委員

中村学長、黒澤・奥田・茅・片田・市川・木内 各理事

(列席者)

小林理事、齋藤監事、八巻監事、埴副学長、白沢顧問、

志村・土屋・深澤・種田・壬生・窪田・望月・石原 各部長、

中村・植村・望月・岩元・大森・雨宮 各課長

議事要録確認

第121回（R5.11.22開催）の経営協議会議事要録を確認した。

審議事項

1 令和5年度学内補正予算（二次）編成（案）について

市川理事から、資料1により、標記補正予算（二次）編成について説明があり、審議の結果、これを承認した。

2 令和6年度学内予算編成方針等（案）について

市川理事及び種田財務部長から、資料2により、標記編成方針等について説明があり、審議の結果、これを承認した。

3 改組等に伴う学則の一部改正及び中期計画の変更（案）について

黒澤理事から、資料3により、工学部の改組、令和6年度学年暦の制定及び医学部医学科の入学定員に係る令和6年度暫定増措置に伴い、学則の一部を改正すること、並びに第4期中期計画の「別表」（医学部に係る収容定員）を変更するための認可申請を行うことについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

4 令和5年度自己点検・評価の実施方法（案）について

黒澤理事から、資料4により、標記の実施方法について説明があり、審議の結果、これを承認した。

報告事項

1 令和6年度運営費交付金及び施設整備費補助金の内示について

市川理事から、資料5により、文部科学省から標記予算が内示されたことについて報告があった。

2 知財活用による社会貢献について＜外部資金の増加につなげる循環システムの構築と運用＞

市川理事から、資料6により、大学発ベンチャーの創成を継続的に促進するための標記循環システムの構築等を行うことについて報告があった。

3 令和4年度における学長の業務執行状況の検証結果について

片田理事から、資料7により、標記の検証結果について報告があった。

4 大学運営に係る執行部と学域との意見交換会の実施結果報告について

黒澤理事から、資料8により、標記実施結果について報告があった。

5 学長補佐会からの提言について

黒澤理事から、資料9により、標記提言が行われたことについて報告があった。
中村学長から、同提言を真摯に受け止め対応していきたい旨の発言があった。

6 令和5年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」審査結果について

茅理事から、資料10により、標記審査結果（申請2事業の不採択）について報告があった。
中村学長から、来年度の応募に向けて内容を精査し、対応していく旨の発言があった。

その他

- 1 市川理事から、金地金の売り払いが完了したことについて報告があった。
- 2 奥田理事から、机上配付資料により、学生に100円ご飯（朝食）を提供することについて報告があった。
- 3 学長から、机上配付資料により、テレビCM・オリジナルミニ番組の放送及び甲府駅北口において水素燃料電池研究PRの展示を行うことについて、報告があった。
- 4 学長から、杭州電子科技大学（中国）を表敬訪問したことについて報告があった。

次回会議 令和6年3月22日（金）13時30分から開催することを確認した。

学外委員からの意見・質問

審議事項

1 令和5年度学内補正予算（二次）編成（案）について

（窪田委員）

- ・施設の管理方法や更新状況について伺いたい。

（壬生施設・環境部長）

- ・大学全体の計画として「キャンパスマスタープラン」を作成し、管理している。
- ・大学の施設整備は、国の補助金が大部分を占めており、計画どおり進まない部分もある。

（山本委員）

- ・能登半島地震に関する山梨大学の対応等について教えてほしい。

（中村学長）

- ・被災地域出身の学生・教職員及び家族は、全員無事であったことを確認している。
- ・今後、被災学生への支援や入試の特例措置等を行っていききたい。

（片田理事）

- ・奨学金支給や授業料免除のほか、日本学生支援機構の見舞金制度の活用も考えられる。

2 令和6年度学内予算編成方針等（案）について

（山本委員）

- ・医師の働き方改革が話題となっており、文部科学省でも医師の働き方改革に関する予算を考えているようであるが、大学予算への反映はどのようなようになっているか？

（種田財務部長）

- ・附属病院における補正予算として対応している。

（片田理事）

- ・文部科学省において、どの大学に配分するか精査しているところである。

（木内理事）

- ・附属病院から手術支援システム等を要求することとしている。

3 改組等に伴う学則の一部改正及び中期計画の変更（案）について

（進藤委員）

- ・改組後の工学部の教員免許が理科と工業のみとなっているが理由はあるか？

（奥田理事）

- ・これまでの数学と情報の教員免許取得者の中で教員になった者がいない状況などを考慮した結果、工学部では数学と情報の教員免許は出さないこととし、（希望者には）教育学部のカリキュラムを活用し取得してもらう方法を取り入れた。

（中村学長）

- ・来年度から、情報科目が大学入学共通テストにも取り入れられることから、山梨県教育委員会と連携して情報教育推進室を設置（専任教員2名を配置）し、現任教員への研修も含め、情報教育に力を入れていくこととしている。

（山本委員）

- ・工学部を1学科とした経緯等について、改めて教えてほしい。

（黒澤理事）

- ・工学部の現状の課題（志願者の低下、優秀な学生の確保、特色の明確化、分野定員の流動性確保、

今後の見直しに向け機動性・柔軟性の確保)の解決や社会の動向等を踏まえ、7学科を1学科に改組した。具体的には、本学が注力しているクリーンエネルギー科学分野のコース新設、専門を決めることなく入学できる総合工学コースの新設、コンピュータ分野の定員の大幅増員、女子枠の設置などを行った。

(野田委員)

- ・工学部の受験生に対しては、コースの希望を聞いて入試を行うのか？

(奥田理事)

- ・入試は一括で行うがコースごとに定員の目安を設けているため、希望のコースを(第4まで)聞くこととしている。

(野田委員)

- ・複雑になったと思われるので、受験生にわかりやすく説明した方がよい。

(黒澤理事)

- ・ご意見を踏まえ、適切に対応(受験生に丁寧に分かりやすく説明するよう)していく。

(進藤委員)

- ・(以前にも発言したと思われるが)山梨県内の大学には建築学科がないので、工学部に同分野を設けることを検討してはどうか。

(黒澤理事)

- ・一定のニーズがあることは承知しているが、本学は建築を専門分野とする教員を現状では有していないため厳しいのではないかと考えている。

(山中委員)

- ・工学部の女子比率はどのくらいか？増えているのか？

(志村総務企画部長)

- ・近年は15%弱であり、微増している。

(佐々木委員)

- ・女子枠の狙いについて教えてほしい。

(片田理事)

- ・理系の女子を増やそうという国の方針もあり、本学においても女子学生が少ないことから、女子枠を設けるものである。

(山本委員)

- ・女子枠を設けるのであれば女子学生にとって居心地のよい環境整備等が必要では？

(中村学長)

- ・例えば、パウダールームの整備や女子トイレの増設などを早急に検討していきたい。

(長田委員)

- ・編入学卒の実績(充足状況等)を教えてほしい。
- ・どのような学生を編入学生として受け入れているのか？卒後の進路は？

(志村総務企画部長)

- ・ほぼ充足している。
- ・新コースへは、令和8年度から編入学生を受け入れ、それまでは旧学科に受け入れる。
- ・編入学生はこれまで同様に高専卒業者が大部分となると見込まれる。

(茅理事)

- ・編入学でない学生と比べると、大学院に進学するケースが多い。

報告事項

5 学長補佐会からの提言について

(野田委員)

- ・研究力強化や高大接続についての重要性は十分に理解できる。一方、入試広報に非常に重きをおいてクローズアップした背景について教えてほしい。

(中村学長)

- ・単に入試要項を広報するのではなく、どのような人材育成を行っているのかなど本学の魅力を広く知ってもらう必要があるとの意図と理解している。

(山本委員)

- ・私立大学の例だが、理念を打ち出すと業界や専門家には受けがいいのだが、若者には受けが悪いといったことがよくある。広報の専門家を雇っても広告会社を入れてもうまくいっていない。山梨大学をどうしていくのか、どう知ってもらうのか、教職員一丸となって知恵を絞って頑張っていたきたい。

(片田理事)

- ・入試方法も含め、魅力的な大学であることを広く丁寧に発信していきたい。また、大学のアピールも含め効果的な広報行っていきたい。

6 令和5年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」審査結果について

(野田委員)

- ・来年度も採択されないとなった場合には、この事業は立ち行かなくなってしまうのか？

(中村学長)

- ・本学の予算で行わなければならない、大幅に縮小しなければならない。

その他

(山本委員)

- ・中村学長は、今回、中央教育審議会大学分科会特別部会の委員に選ばれたと伺っている。これを契機に中村学長や山梨大学の存在感を示すような発言を期待している。

(中村学長)

- ・皆様からのご意見を十分に踏まえつつ、発信していきたいと考えているので、今後ともご協力をお願いしたい。